セミナーレポート

ギャランティード・ネットワークの実現に向けて
－日立IPネットワークセミナー開催－

2004年３月５日、㈱日立製作所（以下、日立）が主催する「日立IPネットワークセミナー」が、東京・品川のホテルパシフィック東京にて開催された。今回のセミナーでは、日立が目指す「情報ライフラインはHITACHI」のコンセプトに基づいた「ギャランティード・ネットワーク」を実現する新製品とソリューションについて紹介された。

高信頼・高品質なネットワーク環境作りを目指して

近年、イーサネットを基盤としたキャリアサービスが主流となりつつあり、その多くは企業ネットワークの共通基盤となっている。また、ミッションクリティカルなデータがIPネットワークに集中し、高信頼、高品質なネットワーク環境の構築が進められている。このような状況を踏まえて、今回のセミナーでは、情報ライフラインを制御するといわれているギャランティード・ネットワークを実現する日立の新製品「GS3000シリーズ」を含めた各製品とソリューション事例に関連した基調講演およびデモンストレーションなどが行われた。

はじめに、㈱日立製作所IPネットワーク事業部長の和田宏行氏より「ギャランティード・ネットワーク分野でNo.1ベンダーを目指す」とのIPネットワーク事業への取組みについての紹介があり、次に日経BP社の「日経NETWORK」編集長である小出由三氏による、「ベストエフォートから再びギャランティへ」と題した講演が行われた。講演では、ルータ＆スイッチ製品におけるベストエフォート型（品質非保証型）とギャランティ型（品質保証型）とを比較し、今後、中心になっていくといわれているギャランティード・ネットワークの展開について言及。小出氏は、「音声系データには加入電話並みの安定性を確保し、基幹系データには、ミッションクリティカルなネットワークを構築することが必要とされている」と語り、さらに「近年のIP統合化により、これらのデータをギャランティ型WANで統合化することでネットワークを効果的に利用できる」と語った。

写真１　セミナー会場風景

写真２　講演を行った池田尚哉氏

「ギャランティード・ギャラクシー」に基づいた日立の取組み

次に、㈱日立製作所IPネットワーク事業部・販売・マーケティング本部マーケティング部の池田尚哉部長による講演「ギャランティード・ネットワークソリューションのご紹介」が行われた。同講演では、「現在、日常の生活では、電子メール、チケット予約、電子ショッピング、

公共サービスといったユビキタスアクセスが浸透し、企業活動においては電子帳票、社内IP電話、企業間取引などのミッションクリティカルな環境が求められている。これらの情報ライフラインを、イーサネットベースで構築する要件として、帯域を保証するギャランティード・ネットワークが適している」と語り、データセンターや官庁・自治体、金融、製造などの多くの場面でのギャランティード・ネットワークのニーズと事例を紹介。そして、「日立では、『ギャランティード・ギャラクシー』とのテーマのもと、高信頼性、高可用性、QoSの提供、IPv6対応、サポート体制の充実といった要件を満たした製品を提供している」と語った。

また池田氏は、「日立のルータ、スイッチが、イーサネットで困難とされていたATM並のきめ細かな帯域保証を実現したことで、低コストでのギャランティード・ネットワークを提供できるようになりました。また、ATMスイッチに取り組んでいる部門のATMスイッチ開発で培われた高度なQoSの技術を同じ事業部門のルータ、スイッチ部門に取り込むことにより、かつてない製品を開発することができました」と語り、その新製品である、IPv6に対応したミッドレンジクラスのギガビットスイッチ「GS3000シリーズ」を紹介した。同製品は、構内ネットワークにおけるミッションクリティカルな業務に対応したLANスイッチで、大規模L2/L3バックボーン向けハイエンドスイッチ「GS4000シリーズ」の高信頼性、基本機能を継承しながら、低価格化を実現した製品である。GS4000／GS3000シリーズは、標準規格の高可用化機能に加えて、次のような日立独自の拡張機能により、高信頼な構内ネットワークを構築することを可能にしている。

・スタンバイリンク機能：リンクアグリゲーション回線障害発生時に、予備のリンクで帯域の低下を防止し、帯域幅を保証する機能。

・離脱ポート制限：リンクアグリゲーション回線において１本でも回線障害が発生した場合、そのグループ全体を、予備経路グループに切り替えて帯域幅を保証した上で通信を継続させる機能。

・GSRP（L2スイッチ冗長切替機能）：障害を検知して、ループ／ストーム発生でのネットワークダウンを回避する機能。

写真３　セミナー会場に併設された展示ブース

さらにGS4000／GS3000シリーズには、堅牢な構内ネットワークを実現する、充実したセキュリティ機能も搭載されている。例えば、エントリ数に依存しない高性能ハードウェア・フィルタリング機能や、sFlowにより詳細な動的フロー情報を管理端末に送ることでネットワークの特性や不正アクセスパケット情報を把握し、トラフィックの統計・監視等を実現する機能。日立の統合管理ソリューションであるJP1／Cm2によるGUIベース管理機能など。

また日立では、万一の際には全国330拠点からお客様サイトに急行し、重要度に合ったサポートをワンストップで提供するNPSS（Network Product Support Service）も準備している。

その他、池田氏の講演では、GS1000/GS500シリーズをはじめとした各製品を利用したネットワークの構築事例などが紹介された。

３拠点間を接続する広域イーサネット網のデモ

なお、併設された展示ブースでは、日立のGRシリーズ/GSシリーズの各製品が展示されていた。講演の休憩時間を利用して、各製品を利用したデモンストレーションが行われた。デモンストレーションの内容は、東京、大阪、九州の３拠点を連携し、企業ネットワークを広域イーサネット網で構築したものや、東京本社から各支店に対してストリーミング配信を行い、IP電話（テレビ電話）にてこの３拠点間の通話を行ったもの。また、JP1を用いたネットワーク管理例なども紹介された。